

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひなぎく)

事業所番号	O691500060		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井館町		
所在地	長井市館町南8-72-10		
自己評価作成日	令和4年 1月 30日	開設年月日	平成26年 6月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットに同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市松町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 4年 3月 1日	評価結果決定日	令和 4年 3月 14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票のみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和元年度に理念の見直しを行い、各ユニットに自分たちの目指すケアとして掲示して理念に添った関わりができてきているかケース検討会などで確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域行事も中止が相次ぎ思うような活動が出来ていない状況にある。今年度においては子供会が行う廃品回収、さいとう焼きに協力参加した。今後もコロナの状況を見ながら柔軟に対応していく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの運営状況や入居者の日の生活の様子伝えながら認知症の方の支援のあり方などもお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市福祉あんしん課職員、地域の代表の方として民生委員、ご家族代表の方、ホーム職員で2ヶ月に1回開催している。ホームの運営状況や入居者の様子を報告するとともに認知症の方への支援のあり方などを交えて伝えている。委員からは行政の動きや地域の情報を伺うとともにホームへの要望や助言等、意見交換が活発に行えるよう雰囲気づくりに努めている。頂いた意見は会議録回覧やスタッフ会議等でホーム職員に伝達し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加協力頂き情報を得るとともに、なにか不明な点や疑問点などが生じた場合は市に連絡し連携を取るようにしている。また市の生活支援員の訪問があり、ホームの実情を知って頂き助言などを得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人内の研修に参加し、他の職員へも資料を回覧し、理解を深めている。更衣室には、身体拘束禁止行為の明示をし、GHで身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に会議を開催し、現在の状況を話し合い、内容についてはスタッフ会議で全職員に周知徹底できるようにしている。常に入居者1人ひとりの行動を把握し、職員間で情報を共有したり、声がけや見守りを行い、ご利用者様が生活しやすい環境作りを心がけている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達研修を行ったり、資料を配布するなど、職員各々が知識と理解の向上へと繋がるように働きかけている。職員間でも入居者について相談しやすい雰囲気づくりを心掛け虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人主催の研修で権利擁護やコンプライアンスの動画視聴を行った。また成年後見制度や日常生活自立支援事業のリーフレットを配布し読み込みを行い、理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居が決定した際に事前に契約書・重要事項説明書をご家族に渡し、内容確認をしていただき、入居当日にも説明を行った上で不明な点等をご家族に確認しながら署名捺印頂いている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の中で「ご家族代表の方より、意見や質問、要望を頂く時間を設けている。また法人においては3年に1度アンケート調査を実施しており、ご利用者様やご家族様の意見を頂いている。コロナ禍で直接ご家族とお話する機会は少なかったが、電話や受診時などでの会話の中からもご意見や要望を伺うように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見や提案など職員間で話し合い、サービスの質の向上へ繋げている。会議以外でも気軽に相談できるような環境作りや口頭や申し送りノートなども活用し情報共有に努めている。運営に関する悩みや方向性の確認などはエリア部長やGH担当部長に相談助言を頂き必要時は管理運営会議に反映されるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価表を各職員が記入し、ホーム長との面談を行っている。また普段の会話の中から職員の思いや意見などを汲み取るよう心がけている。職員の努力を認め、苦手な部分については一緒にどのようにしていったらいいのかを考え各自が向上できるような環境づくりに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外研修や法人内の委員会主催の研修など、個々の力量や向上心に添って参加を促している。また所内研修を実施して職員のスキルアップやレベルアップができるよう取り組みを行っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で同業者との交流する機会は持てなかった。今後コロナの状況を踏まえて実施していく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後にご自宅や入院されている場合には病院へ事前訪問に伺いご本人の困っている事や不安ごとと要望等を伺っている。傾聴しご本人のお気持ちに寄り添って安心できるように対応している。事前見学はコロナウィルス感染症拡大により現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の相談事に気軽に相談をして頂けるような雰囲気作りを心がけている。言葉かけに配慮し丁寧に説明を行うことで、信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用開始の段階でご本人とご家族様に対しての必要な支援を見極め考慮した上でのサービス提供に務めている。在宅時の情報やご本人の生い立ち等をお聞きする事で気持ちに寄り添った関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人ひとりが、理念を念頭におき常におれないよう持ち歩き確認が出来るようにしている。出来た喜びをお互いを感じ、支え合う気持ちを大事にし入居者の良好な関係づくりを支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのお電話や来訪の際には日常の様子をお伝えしている。ホームからの季刊誌でもご本人の状況報告を行っている。コロナウィルス感染症の拡大により、面会は制限されている為ご家族のお気持ちに寄り添い出来るだけ細やかな様子をお伝えして安心をしてもらっている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来ならばご家族ご親戚や友人等の来訪時は、ゆっくりと居室でくつろげる様場所を準備している。現在は外出や面会の制限があり電話やオンラインでの面会で外部の方々と交流を行い関係性が途切れないよ支援に務めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者どうしの関係性を把握し、会話や作業を一緒に行う事で孤立せずお互いが支え合いながら有効な関係が維持出来るよう見守りや声掛けをしながら支援に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合でもお電話にて状況を伺ったりする事でこれまでの関係性が継続できるように務めている。必要に応じた相談事や支援を行い本人やご家族へのフォローも行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前訪問では、ご本人やご家族にお話を伺い生活歴、生活環境、習慣等の把握に務め職員間での情報共有を行っている。センター方式シートを活用している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報や入居後積もご本人と積極的に関わりを持つ事でこれまでの生活や環境背景を把握することでケアに活かせるように務めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームとして毎日リハビリ体操やレクリエーションの提供を行っているが、お一人お一人の体調やお気持ちに配慮しながら働いている。体調や心身の「状態」に変化があれば個人記録や申し送りにて職員間で情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のC-2-1のシートを活用し本人の思いや身体能力の把握に務めている。スタッフ全員がアセスメントをする事で本人の意向や状態に反映した介護計画書作成出来ている。3ヶ月毎にモニタリングを行い状態に即した介護計画書を作成できている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動や行動をありのままに記録し情報を共有している。介護記録の中にケアプランの実践状況も記録し計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年であれば地域の方との交流(ぼたもちづくり、季節のバスハイク等)で利用者の方の楽しみの一つとなっていたが、コロナウイルス感染症拡大により実施する事が出来ない状況である。ホーム内にて季節に応じた行事やお菓子作り等を行い季節感を感じ楽しみに繋がる様な支援を行っている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医へご家族の協力を頂き受診を行っている。受診時には、受診時連絡表を作成し状態の報告を行っている。また、かかりつけ医からもアドバイスを頂いている。緊急時や必要に応じ職員も同行させて頂き適切な医療が受けられるよう支援している。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師が医療連携看護師となり、週に1回来所し、健康管理や相談ごとのアドバイスを行っている。緊急時や必要に応じ主治医や緊急医療との連携を図っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要情報を医療機関へ提供している。また、入院中も病院の医療連携部署から状態を逐一お聞きし情報交換に務めている。退院時前のカンファレンスに参加し利用者の体調や病状の把握を行い、退院後も不安なく生活が送れるように支援を行っている。			
	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際にご家族に重度化時の指針について説明を行い、同意の署名捺印を交わしている今年度は、ご家族の希望と主治医の同意を頂き話し合いのもとに1名の看取りをさせて頂いた。看取りプラン作成や看取りについての学習を行い職員間での情報共有し不安少なくお看取りを行う事が出来た。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき事業所内での訓練を毎月行い実践力を身に付ける様にしている。その都度、訓練後には振り返り反省を行いスタッフにも情報が共有出来るようしている。反省からマニュアルの見直しを行い内容を更新している。マニュアルは事務所内に配置し誰でも確認できるようにしている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の指導の基総合的な訓練を行っている。運営推進委員の方にも参加して頂いている。今年度はコロナウイルスの感染拡大もあり、外部の方の参加は見送られた。部署でも年間の訓練を独自に行いマニュアルの確認と見直しを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりに意識しながらご利用者の立場になって対応するように心がけている。尊厳やプライドに配慮出来ているか職員間で話し合いをもち日頃のケアに努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望に沿う様にお一人お一人の思いをくみ取りながら自己決定が出来る様に働きかけ支援に努めている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や体調に合わせて居室やフロアで過ごして頂いている。お一人お一人の生活のペースに合わせて過ごして頂ける様に環境に配慮し関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台の側にご本人様用の洗面道具を準備し個々が自由に取り出す事が出来る様にしている。また、出来ない部分については支援を行い整容が出来ている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様の食べたいものをお聞きして季節感を感じて頂ける様に心がけている。盛り付けや片付け等の作業はは個々の能力を活かしながら職員と一緒に行う事が出来ている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態に合わせ形態にも配慮しながら、栄養バランスのとれた食事を提供している。必要に応じて一日の水分摂取量を計測し足りない場合は水分強化に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行っている。自立している方は本人に任せている為、実施できるよう声かけを行っている。週2回義歯消毒を行い、歯ブラシやコップなども曜日を決めて洗浄と消毒を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄板に排泄の記録を行い一人ひとりの排泄の状況を把握している。見守りや声かけを行い、可能な限りトイレでの排泄を促している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を毎日行い、水分摂取を促したり、リハビリ体操や散歩などで毎日運動することで便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態や本人の気分に合わせて入浴の声がけを行ったり、入浴日の調整を行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるよう空調や照明等の環境を整えている。眠れない場合、無理に入眠を促さず、職員と一緒に過ごすなど安心できるような声かけを行っている。またご家族に協力いただき枕など使い慣れたものはご持参頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2名で処方箋を確認しながら薬わけを行っている。どんな薬を内服されているのかわかりやすく明示し把握に努めている。服薬支援時には薬の数、本人の名前といつ内服するお薬なのかを確認し支援している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力に応じた役割や楽しみの活動を行っている。家事をされていたなどの生活歴があれば食器を拭いて頂いたり、盛り付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたりし、ハーモニカが得意な方にはレクの時間などに吹いて頂き充実感が得られるように支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルスの影響もあり、外出支援について思うような外出が実施できていない。今年度は新型コロナウイルスの状況を見ながら、天候の良い日に周囲の散歩を行い隣接する法人特養前のつつじ見学を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在入居されている方はご自分でお金を所持されている方はおられない。コロナ禍でもあり買い物や外出に行かれる機会がなかったが、必要時にはご家族に依頼しご持参頂くようにしている。金額については職員間でいくら所持されているのか把握を行い周知するように努めている。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族の希望があった際にはiPadによるオンライン面会の対応などを行い、会話等スムーズにやり取りができるように支援を行っている。またご家族が持参されたお手紙はご本人にお届けしたり、面会が出来る時期に於いては一緒に読んで頂くなどの支援を行った。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感が味わえるように季節にあった装飾を入居者の方々と一緒に作成し、フロアなどの見える場所に飾ったり、入居者の方が居室やトイレの場所がわかるように状況に合わせて明示を行っている。フロアの温度や湿度チェックや整理整頓、定期的な掃除などを行っている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごしていただけるように入居者の方々の関係性を見ながら食席の配置や検討を行っている。フロアで思い思いに趣味の塗り絵や編み物ができるように働きかけをおこなっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が使用されていた枕や毛布、寝具、家具などを持参いただき、使用して頂いている。居室には家族との思い出の写真や思い出の品物を飾ったりし、本人の思いに添いながら対応している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の扉に名前を明示し、ご本人がわかりやすいようにしている。それでも迷ってしまわれる方には居室までの矢印を明示し居室の方向がわかるようにしている。また洗面のカゴにも名前を明示し本人の生活動作に添って出し入れが自由にできるように対応している。		